

## 2. 保育の有り方・こどもへの対応

- 評価・反省
- ・子ども同士の関わりは大体理解していても、保育者は皆に対して同じ関わりではいけないので、もっとしっかり見ていきたい。個々に合った対応を心掛けました。
  - ・こどもへの対応はその子に合った対応を意識しているが、年中・年長との関わりが少なく思った。
  - ・個々のこどもの課題について、試行錯誤しながら様々なことをおこなっている。
  - ・こどもたち一人ひとりとの関わりを大切にすることを心掛け、朝の視診を行いました。興味・関心あるものを取り上げて、お店屋さんごっこ・ファッションショーなどを展開しました。また、夏野菜などこどもの主体的な取り組みからの調理で食育にも力をいれました。
  - ・怪我をさせないようにと思うが故に、こどもが自分で気づく以前にわたしが先に「危ないよ」と言ってしまう事が多く、こども自身が気づけるよう見守ることも大切だと感じた。
  - ・活動に忙しかったり、手が離せない時、こどもの気持ちや話に十分取り添えないことが時々あった。
  - ・クラス全体の姿と共に一人ひとりの姿を把握して見ていける様に心掛けている。
  - ・常に子供たちが安全に楽しく遊ぶことが出来るよう配慮している。

(お助けマン)

- ・健康・安全への配慮には十分気を付けている。
- ・園のアスレチックでのびのび遊べるよう、登園し支度を済ませたら園庭で直ぐ遊べるよう保育者の配置も工夫出来た。
- ・4月～6月まで同じクラスで後は1週間で交代する為、なかなか個々の発達・姿を見通しにくかった。どうしても長く居たクラスの子が中心となってしまった。
- ・なるべく早い時期にそれぞれのこどもを理解し、信頼関係を築きたかったが、どうしても関わり方に偏りがうまれてしまった。
- ・子どもの情報を後になって知ることが多かった。

反省を基に来年度改善・実行すること

- ・行事を理由に遊びを発展しきれず途中で中断したり連続性に欠けていたように思います。次年度は思い切り発展させていくために活動に見通しを持ちたいです。
- ・事務員として子供の名前・顔・クラス・環境等を把握する。
- ・より具体的な見通しや目標を持ってこどもの課題へ援助をしていきたい。
- ・こどもの関わりに偏りが無いよう、その子の視点になって考えてあげたい。社会資源・機関を利用したり保護者との話し合いを多く取りたいです。
- ・こども一人ひとりをもう少ししっかりみることを、心掛ける。異年齢児との交流を増やす。
- ・活動の説明など難しい言葉を使ってしまうことがあるため、簡単な言葉にする努力をしたり事前にどのように伝えるか自分の中でイメージトレーニングをする。
- ・保育者の事情に関係なく、どの子の話や気持ちに十分寄り添い声を掛けてあげられるようにしたい。

- ・広くそして深い視野を持って、こどもたちと関わっていききたい。
- ・視診を確実に行う。

(お助けマン)

- ・引き続き健康・安全へ配慮を心掛けたい。
- ・子どもと接する時、丁寧な言葉がけを心掛けたがつい、方言が出てしまう  
ことがあり正しい言葉づかいを心掛けたい。
- ・1週間交代でなく1か月交代にしたらどうか。クラスのこどもたちの  
様子を細かくノートに記しフリーを含めての会議が出来たらよいのでは。
- ・フリーだからこそ、一人のこどもにゆっくりとことん関わる時間をもつことが  
出来ることもある。週ごとにクラスを移動していく体勢の中、こうした一人と  
密に関わる時間を大切にしていくことで、出来るだけ多くのこどもとの信頼関係  
を築いていきたい。
- ・ミーティングノートを毎日チェックする。大切な情報は漏らさず記入する。